へ13
3696
6

爲永春水補綴
新造姫揃
西國巡礼
十六編上
十六編下

彩婚補
十七編
上
寿だん
百古々
十七編
下
今様画
後学春輝

新増補西國奇談十八編
上
春水作
芳虎画
下

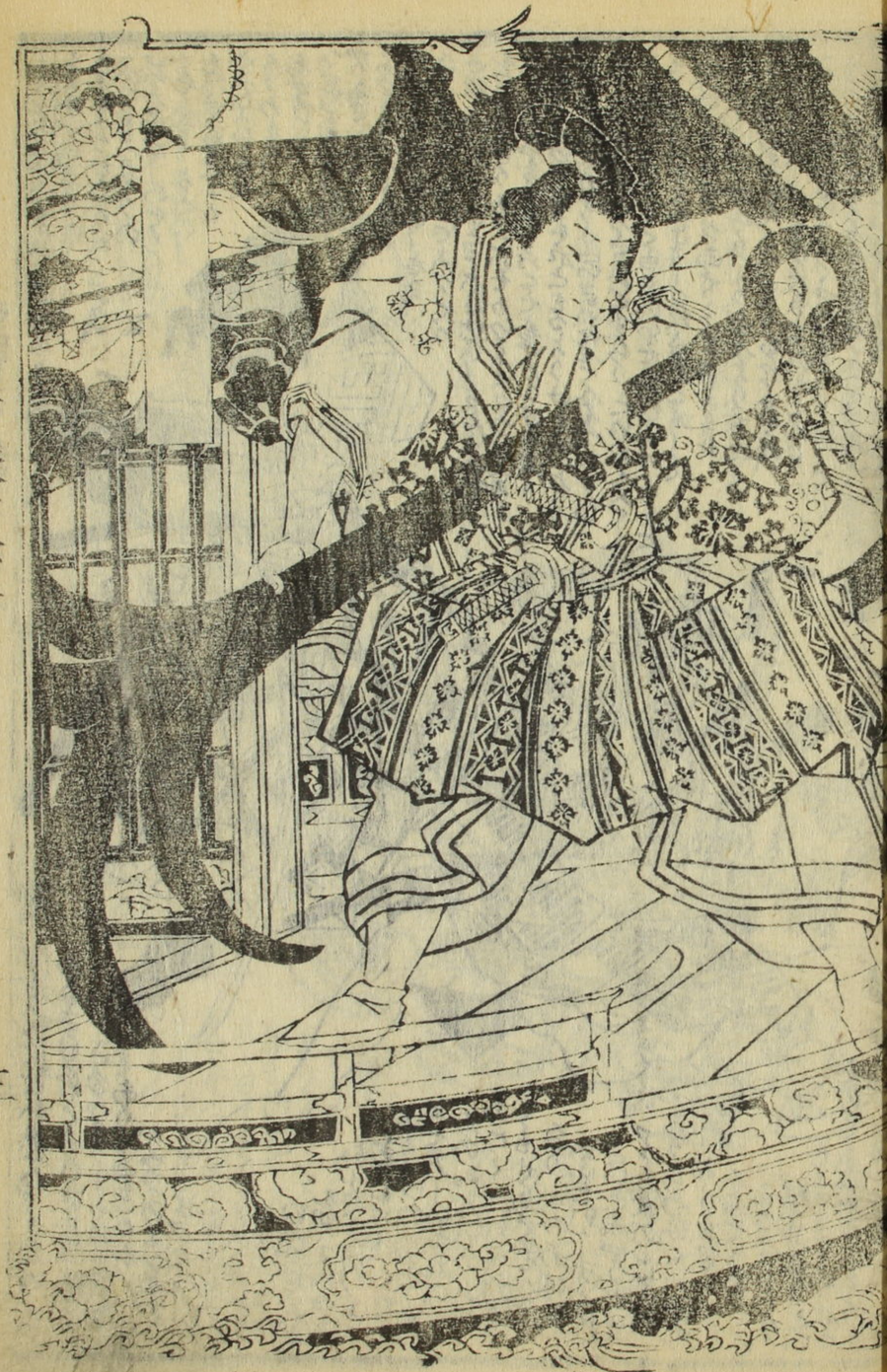
門へ13
3696
6

種のうえ品上ハ。法ゝのまぬと言ふる紙。根もるさと支に枝葉と添年々歳々編枚茂まど。早晩も常盤ぐ珍らしき。下花咲ん手段もうく法ゝく伸る桔桐夫之五目にもゝうとゆくゞ。節れ多く見所るえと。猶棄ゆハぬ看官の。高評の斧を賜へまバ。法ゝ埋木うすりも果ば。ゝゝや詠めハあゝにゝ枯木も山の賑ハひ中花ゝき策子をきゝゝ木に。又此春ゝちゝ。耶西国の物語りにゝ。

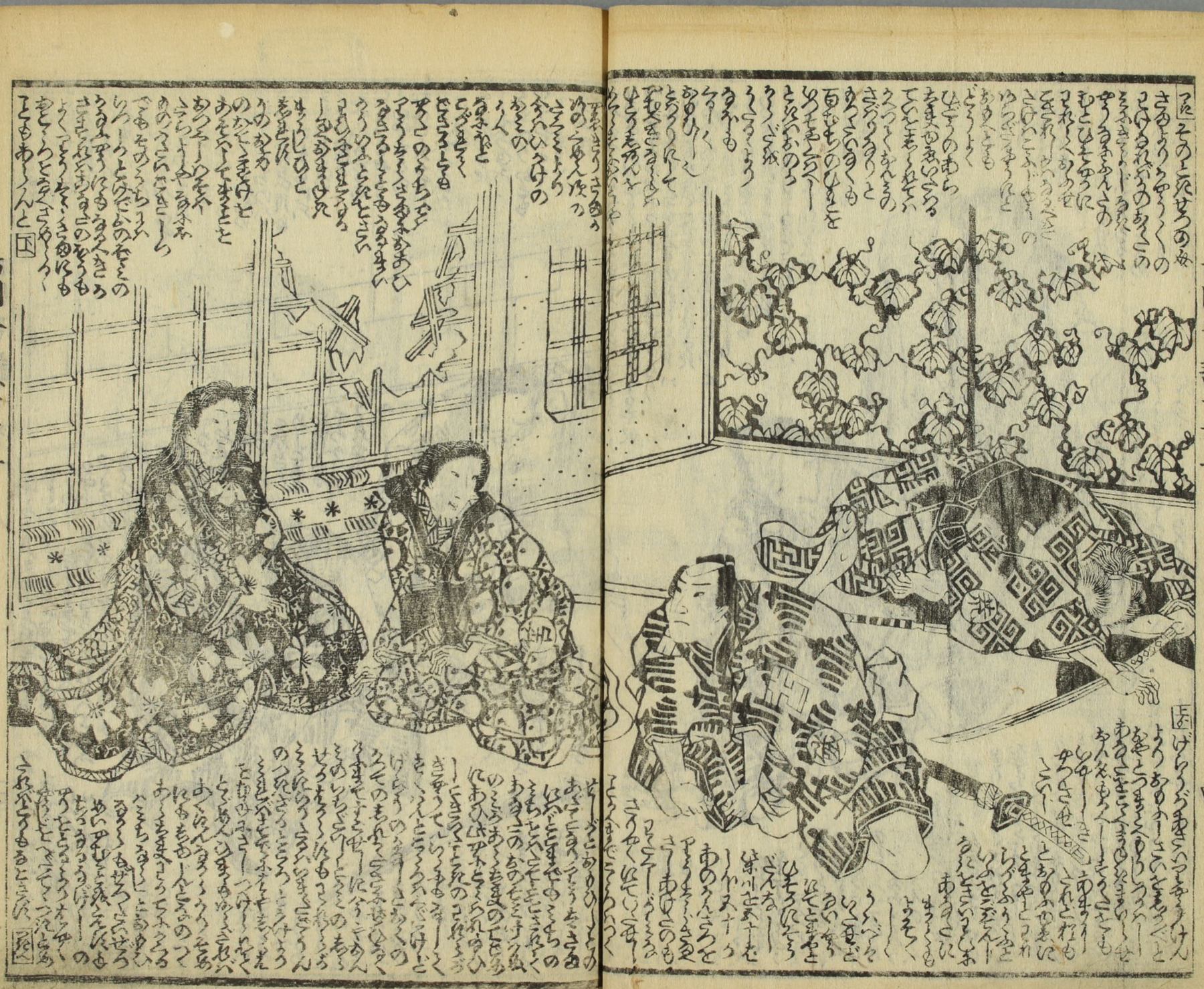
干時文久三稔
癸亥春睦月

爲永春水記

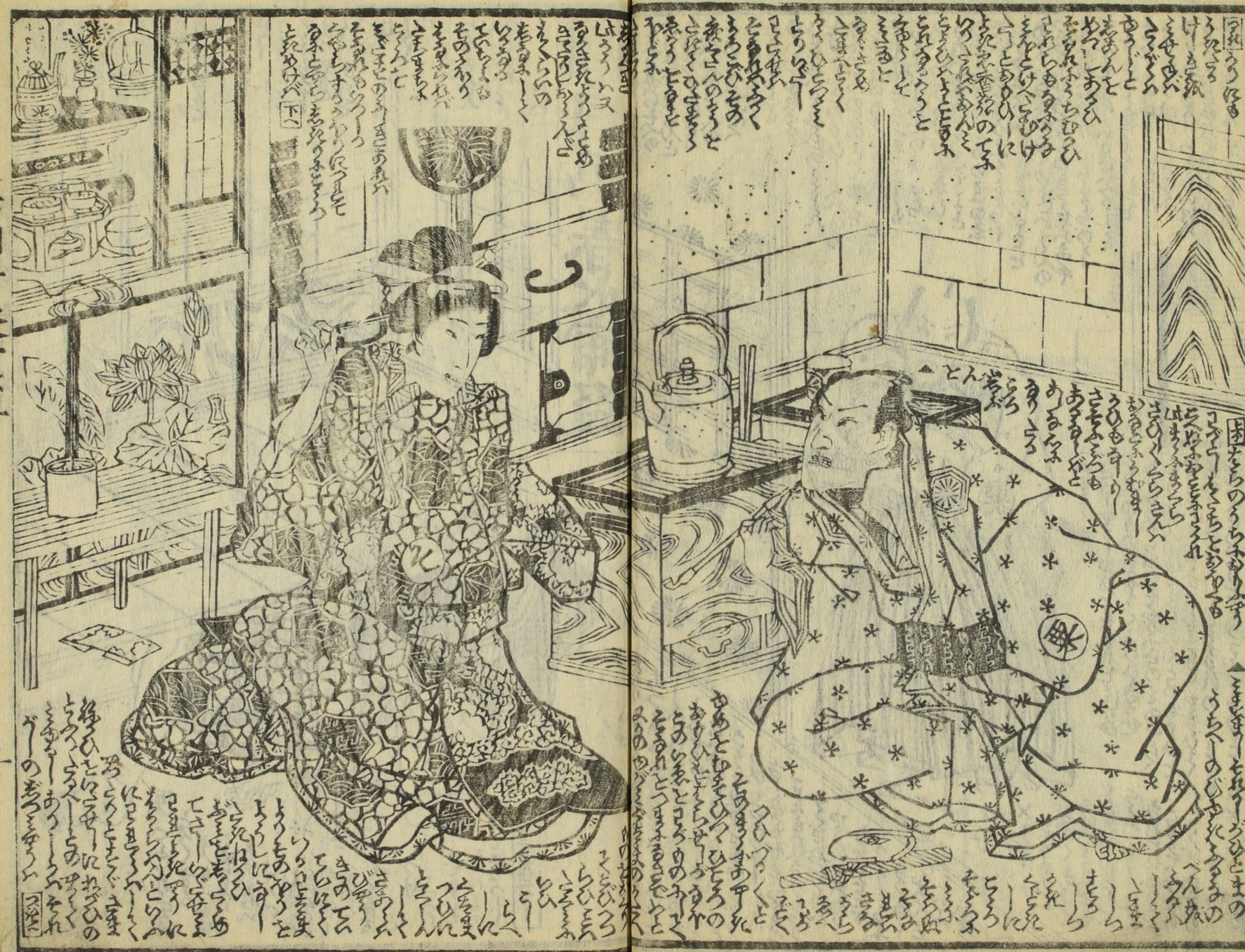
阿竜
赤松妖齊

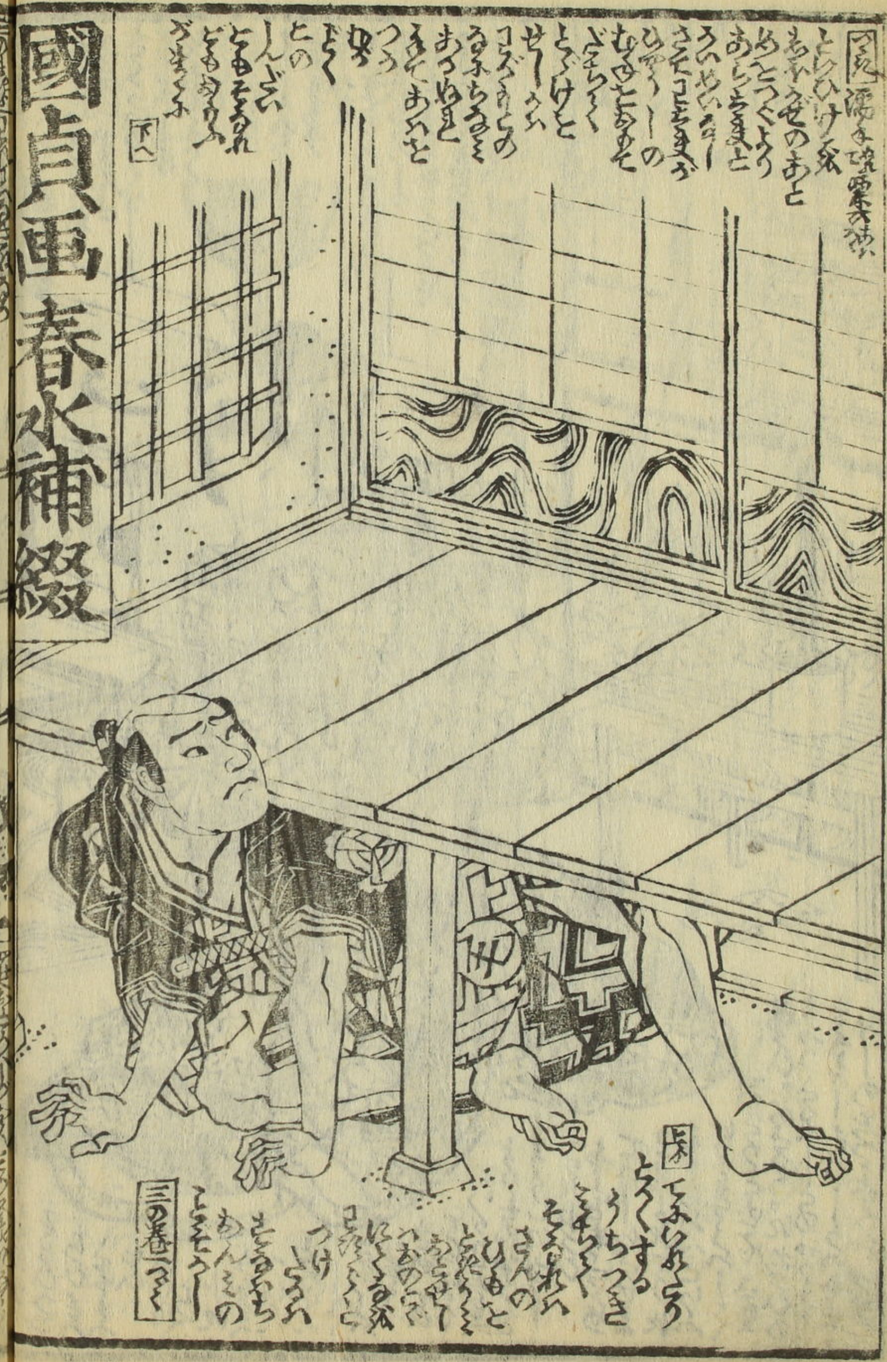


木邑龍太郎

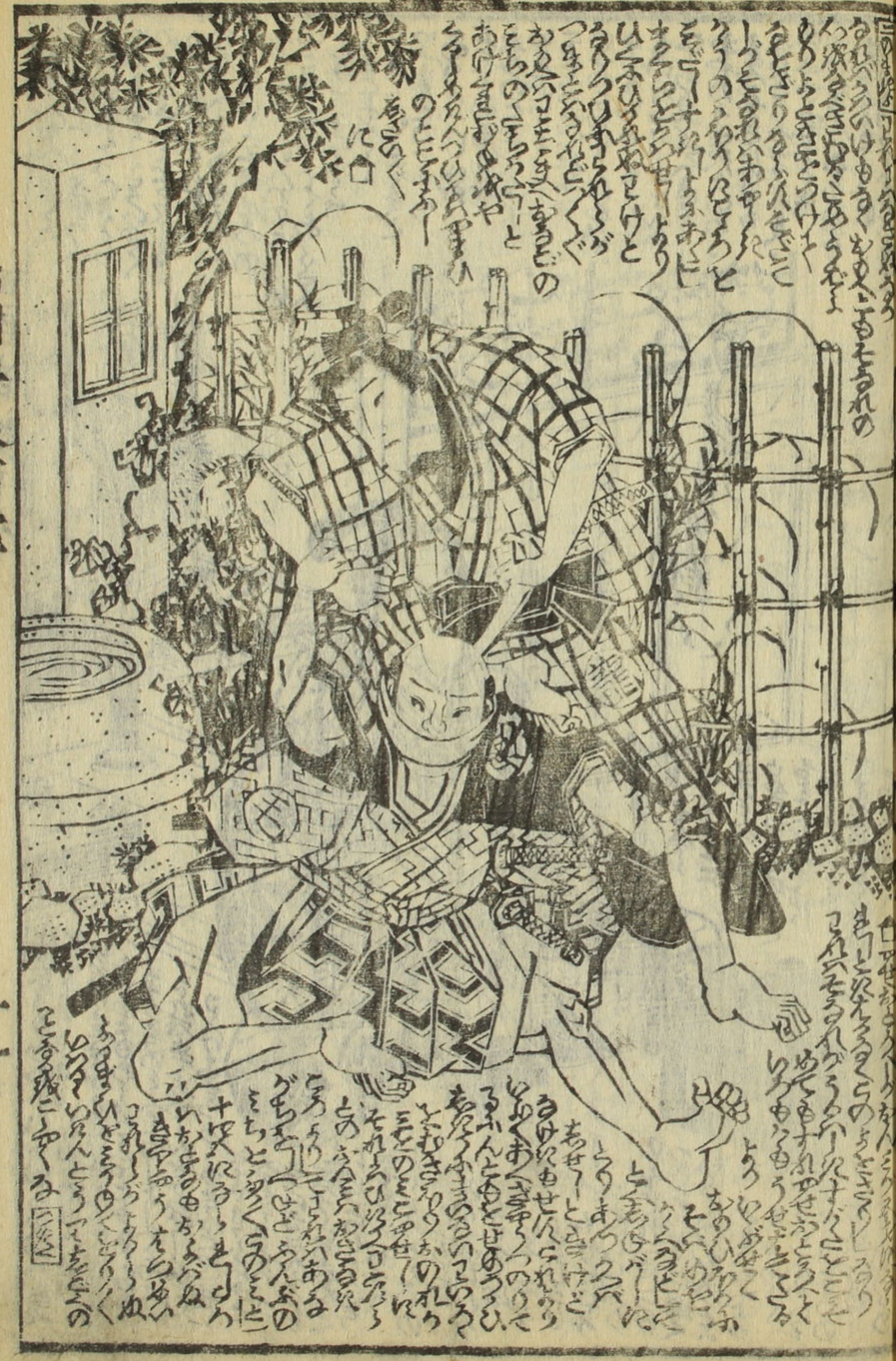


水

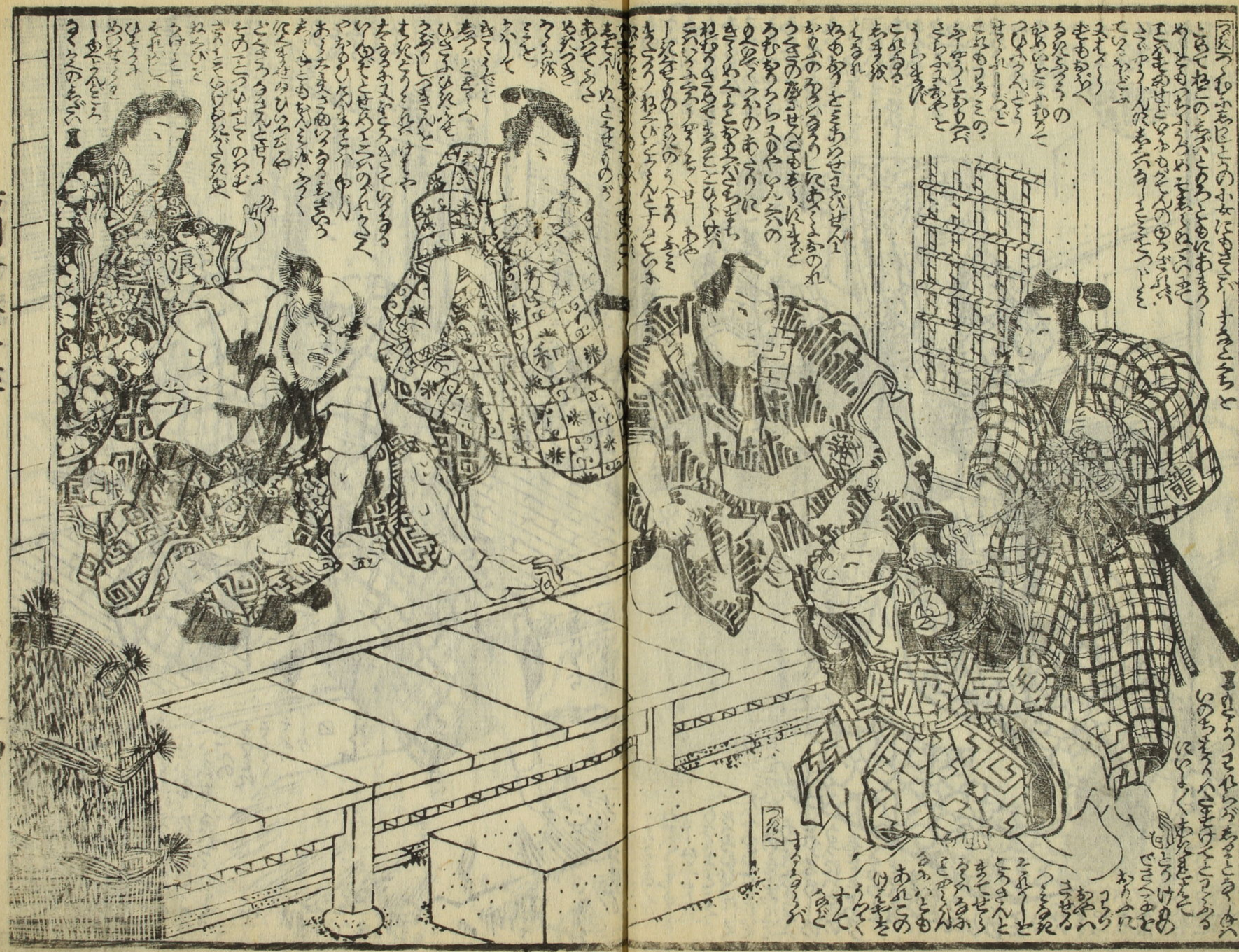




國貞画　春水補綴



這重い和次郎が物語の狀を圖す

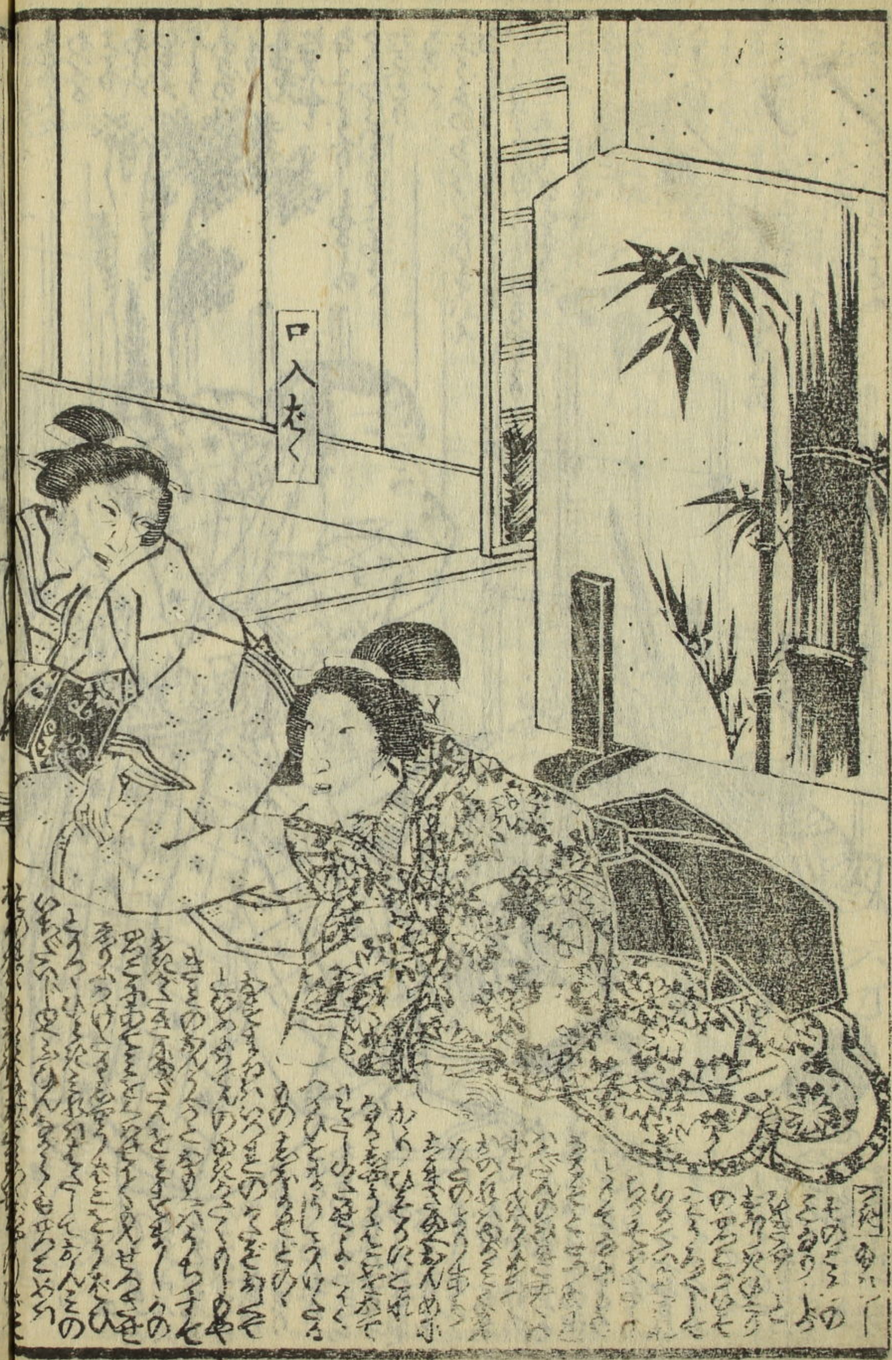


龍
涙

和

龍

和


口入だく

久
さんせ

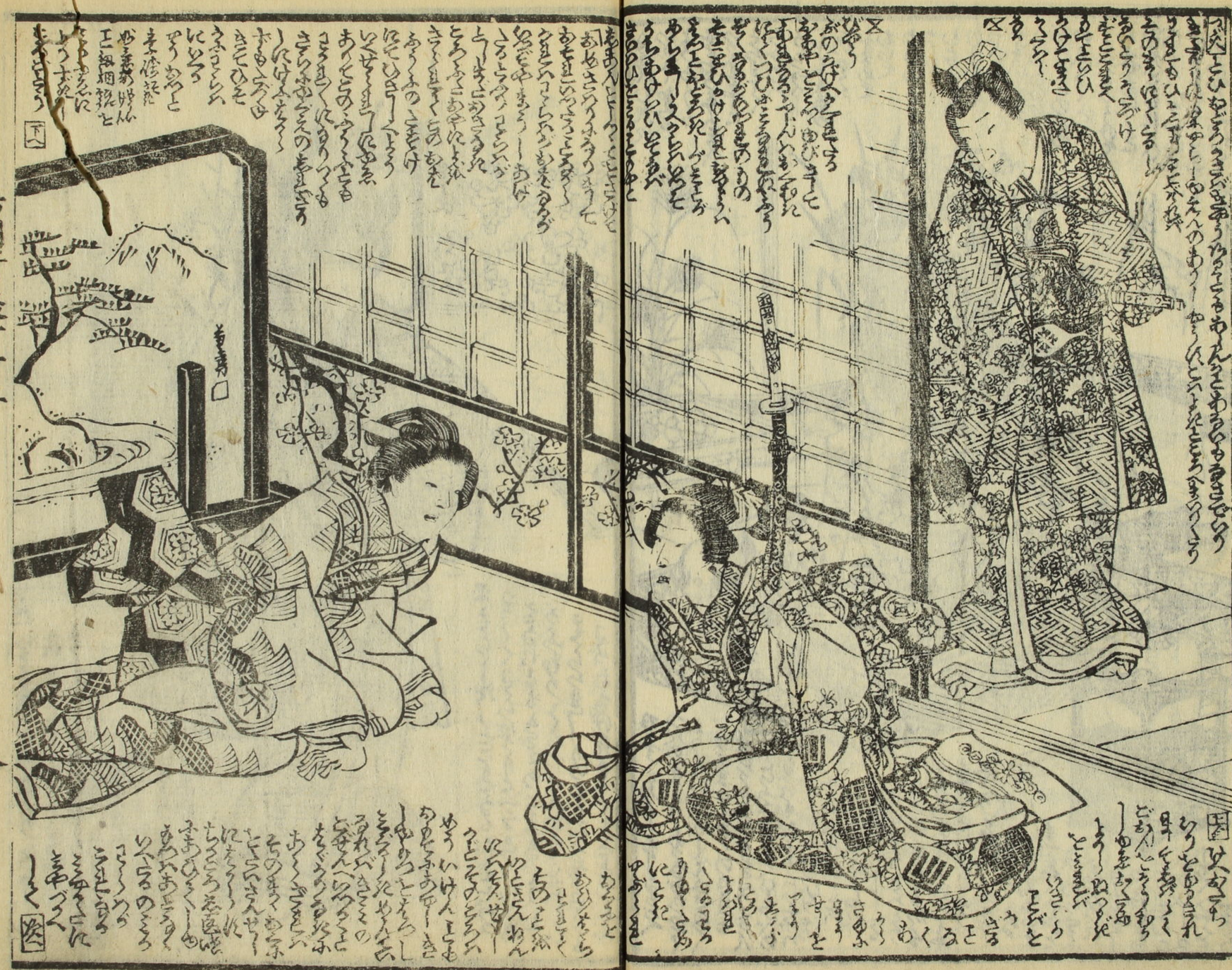
漢ふ倭の策子と讀ふ。暗愚の小人権とうて威と國中う
恣みもとび、順孝の才子零落して、不時の横難ふ苦む
あて、却て薄命とも天命とも天るべし私ふるを裏俗
是ふう怒りきれて、不善に入る者甚しむ。幷て釈氏
も教戒して。三世業因や説もの。うして。説宙遠るん
婦幼の耳う入易うして。所と。稗史小説ふの。巧説を差ふ
ことなくして。勧懲すふ捷徑ふ。稚童等先這九三草紙ふ
看べ。身と省るの一助とおもうん

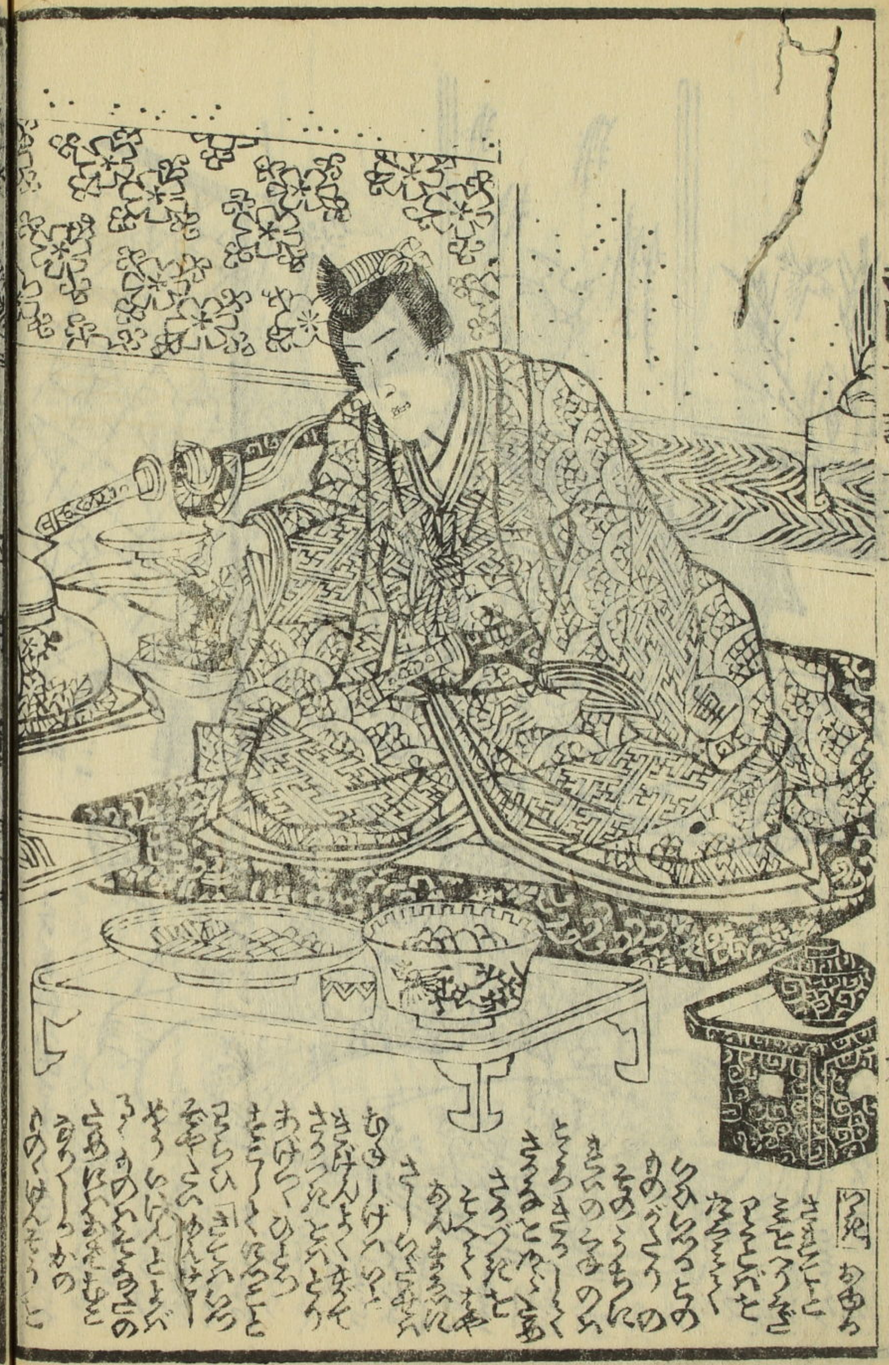
戊辰新春吉旦　爲永春水記

素崎
妙意軒

鷲塚
爪五郎

素晴の妻
阿綾



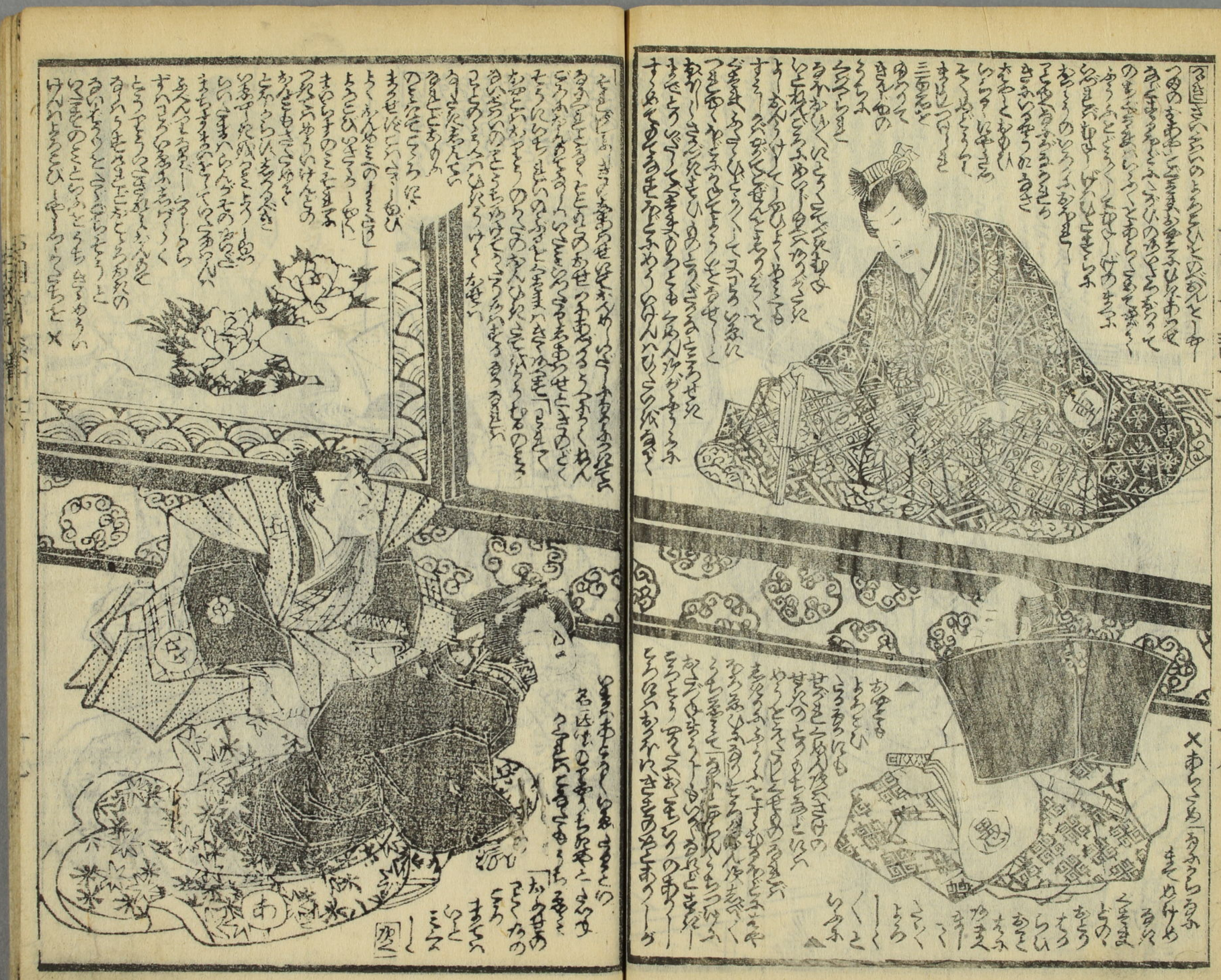


芳虎画　春水作

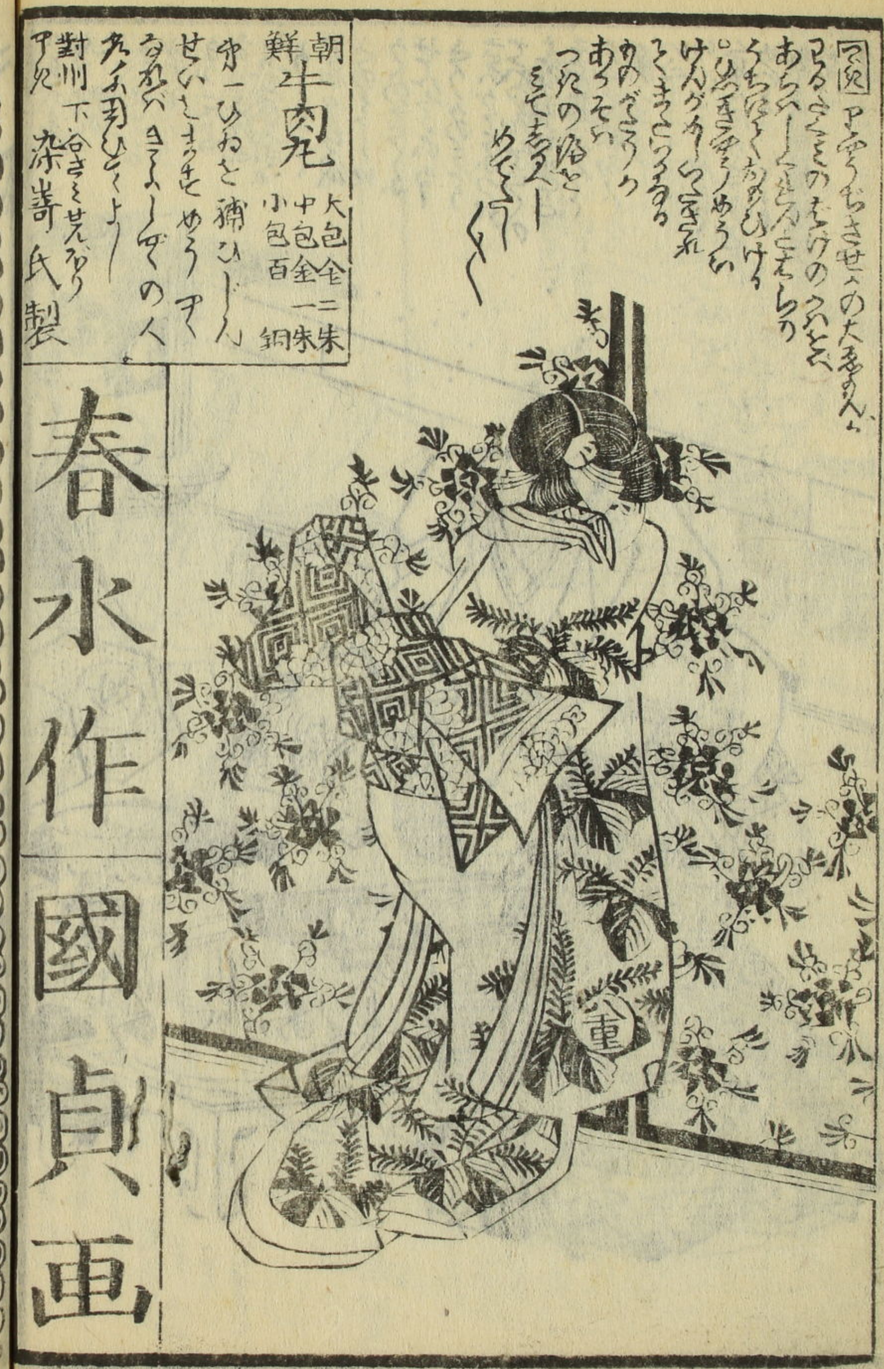
三の巻

妙

愚



朝鮮牛肉丸
大包金二朱
中包金一朱
小包百銅
第一ひねと補ひ〆
せいたまりをめう
対州下ねきせんり
深壽氏製

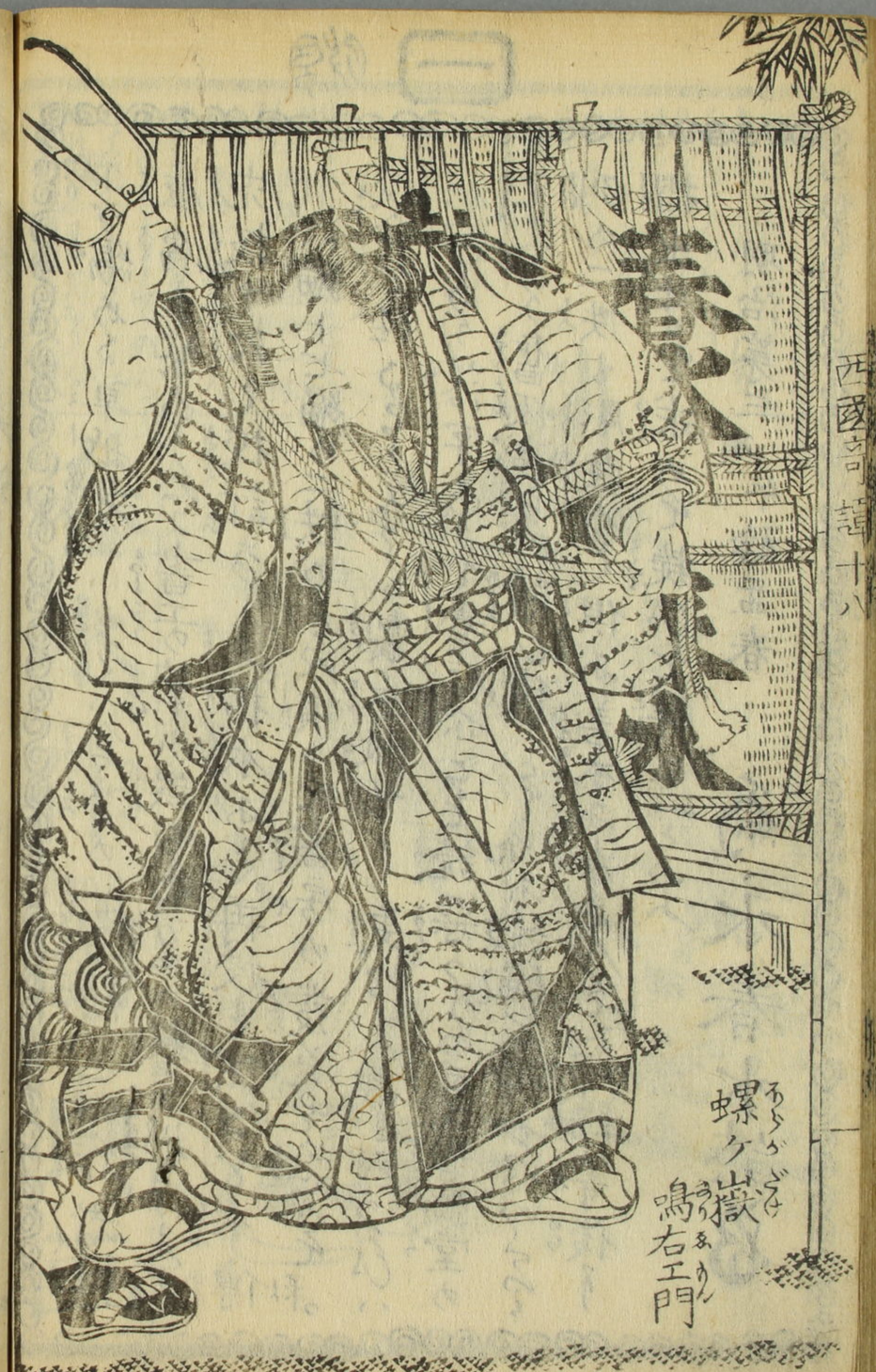


僕が編める草紙物語ハ多くハ倉卒の間ふ綴まべ作者ハ
盍漏の糸あゞぬよ書工の筆ふ誤らまカユの鑿ふ撓さるまそ
先板下ハく校訂ゝ又摺本ゆく再校を然るを本傳
十八編十七編の二帙のゞ頃りに書房の發兌を急ぎそ
校合を経ることゝ〳〵製本做せし吏ハ〆あまべ
誤字あり落字あり看官ハこそ読惡うめ茲ふ青盛堂の
主人あり舊板殘らゞ贖ひ得ゝとて余ふ續編を請ふ
例の二帙も彫改めく倶ふ善本ふなきんとて婦幼等後り
摺出せるを求めて疑ひを鮮ぬへとい

明治第三庚午稔孟春

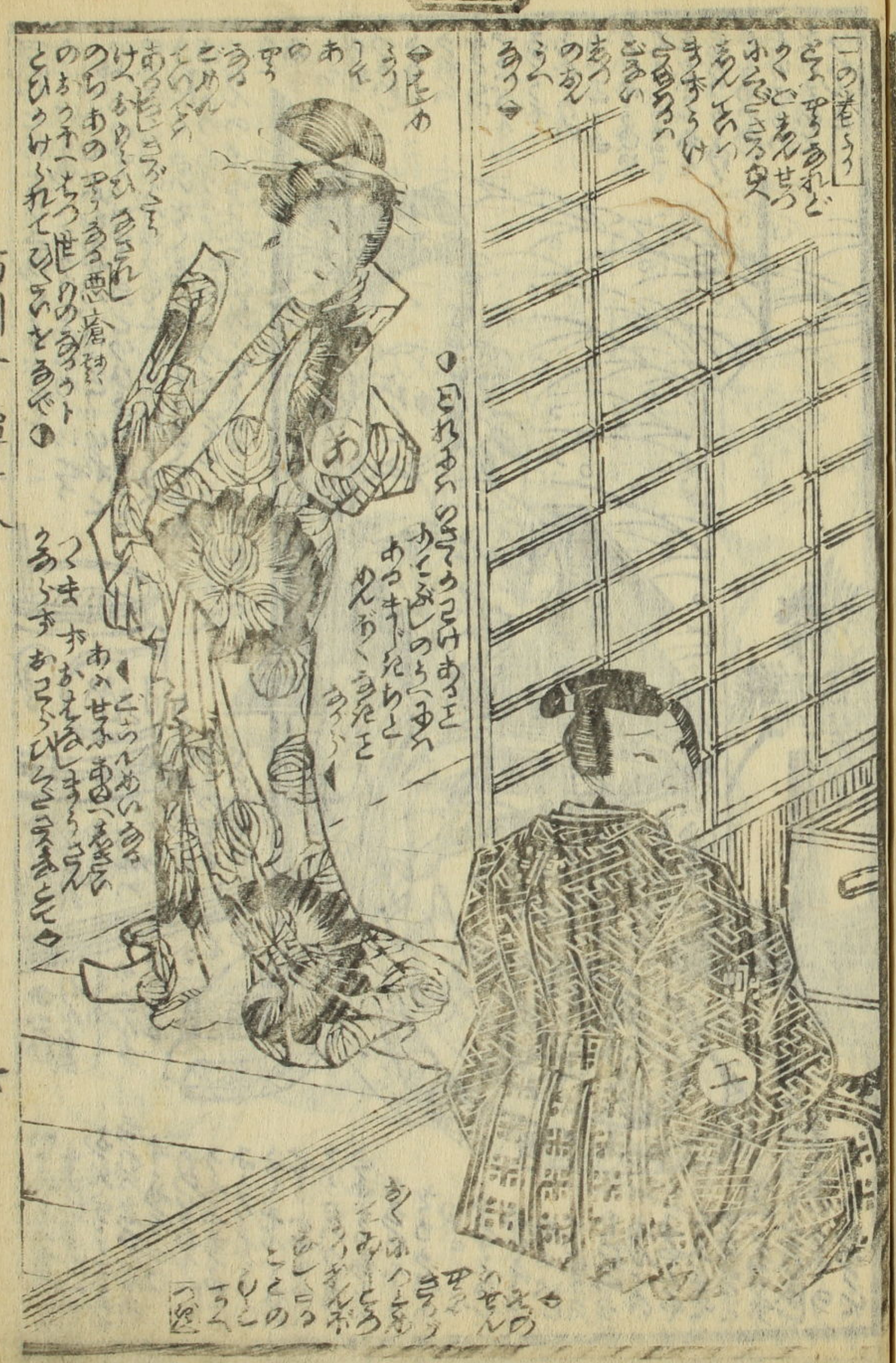
為永春水誌

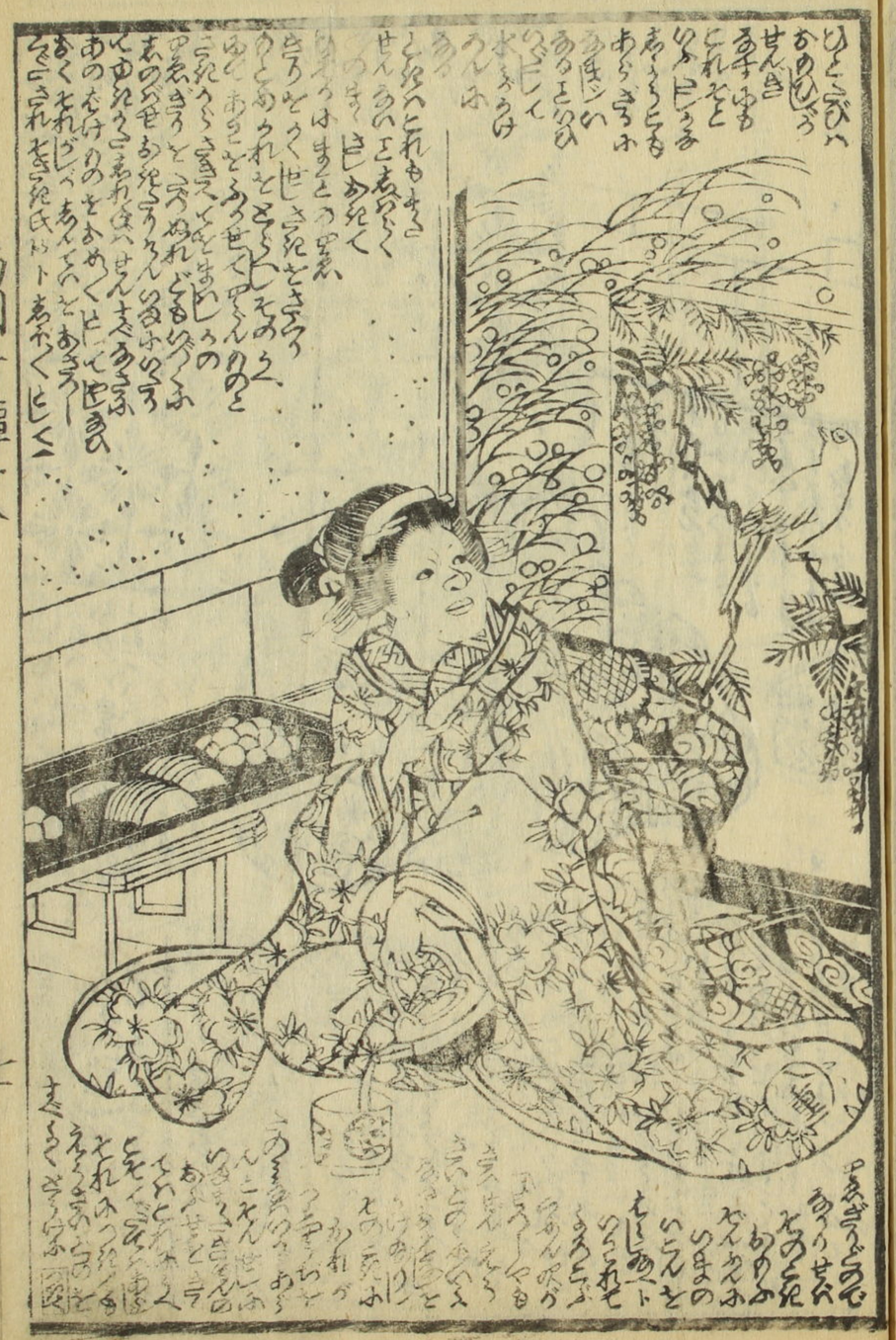
四准次妻
阿爪
二桐
四准次

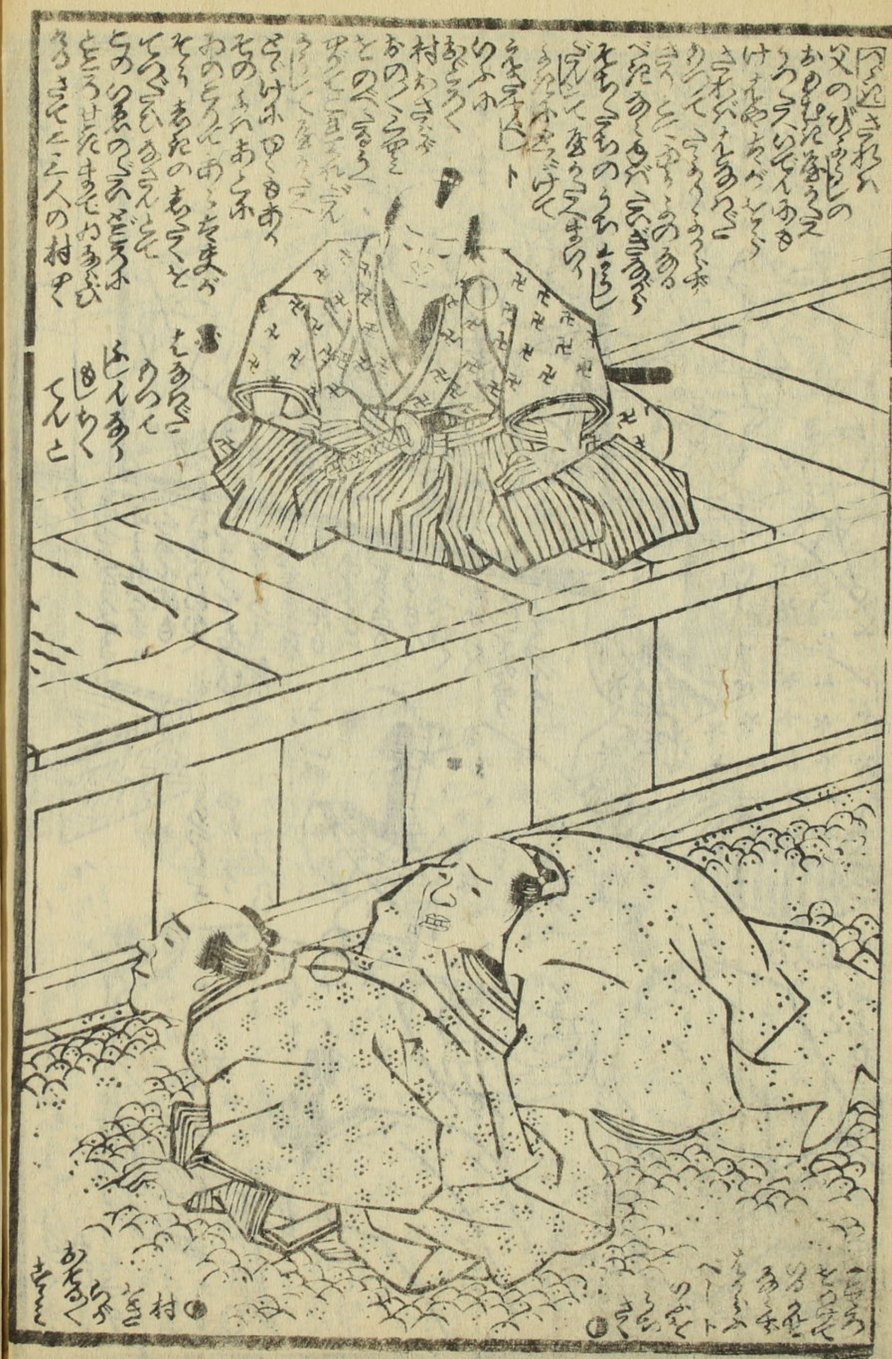

螺ケ嶽
鳴右エ門

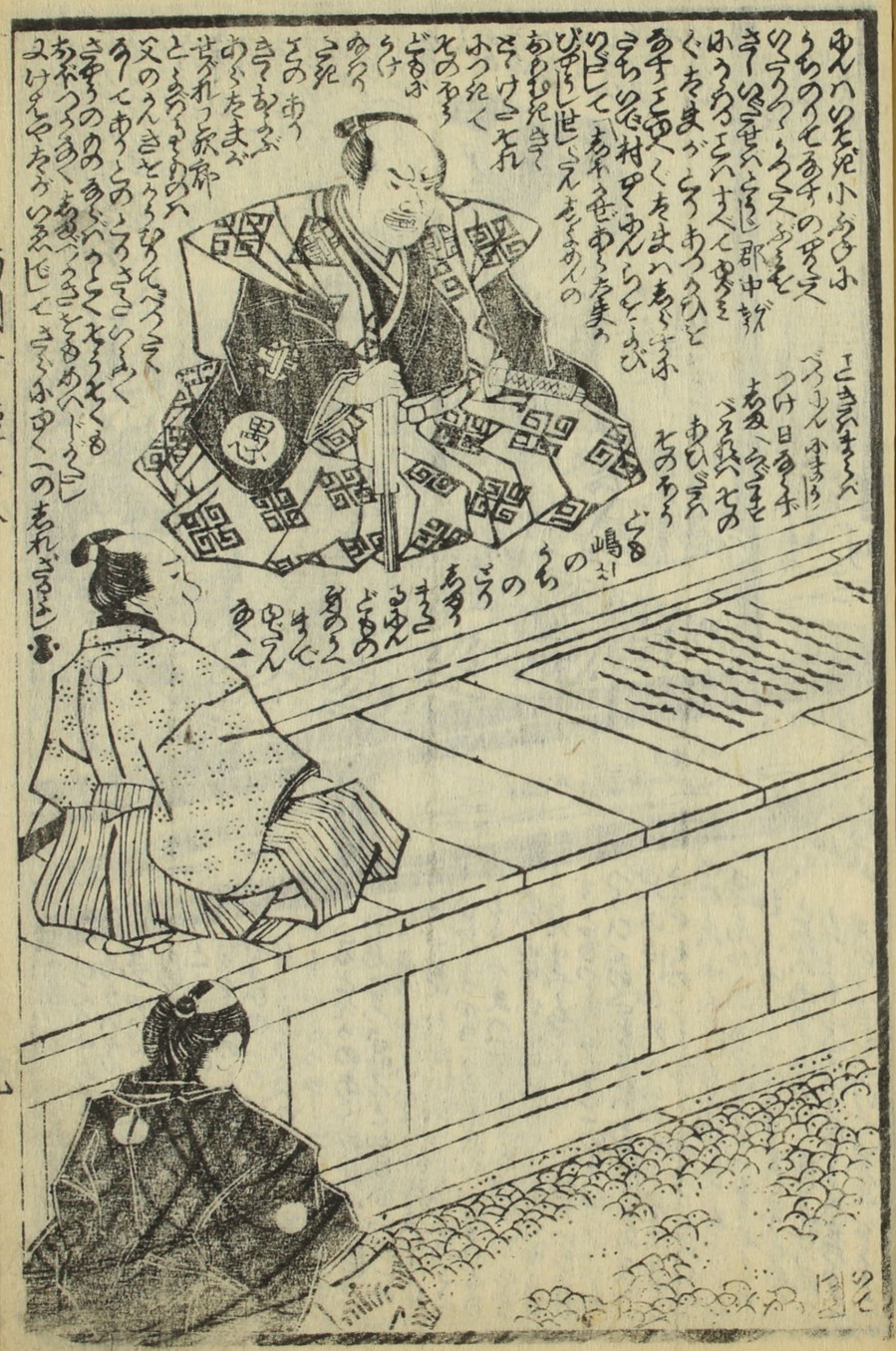
西國奇士 十八
磯馴めつうさう
竜太郎

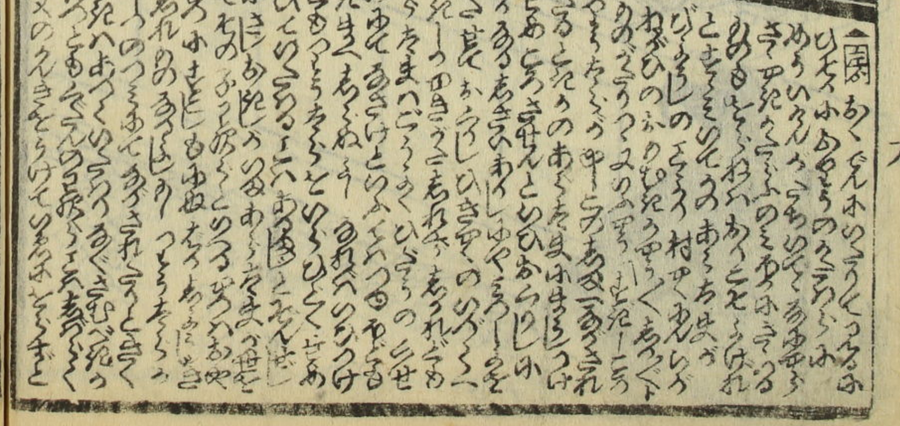
十七編つゞき
西國奇士 十八



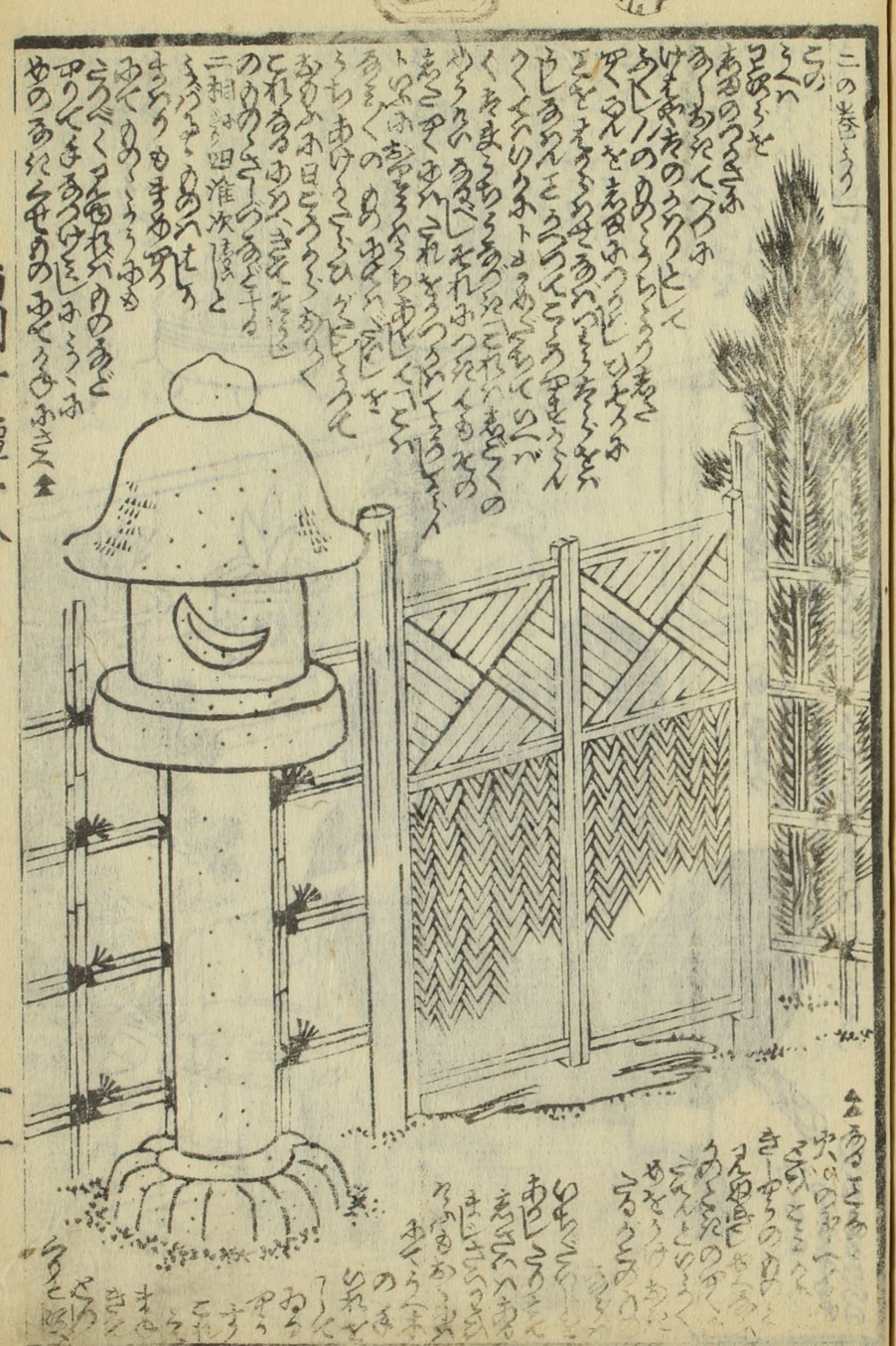


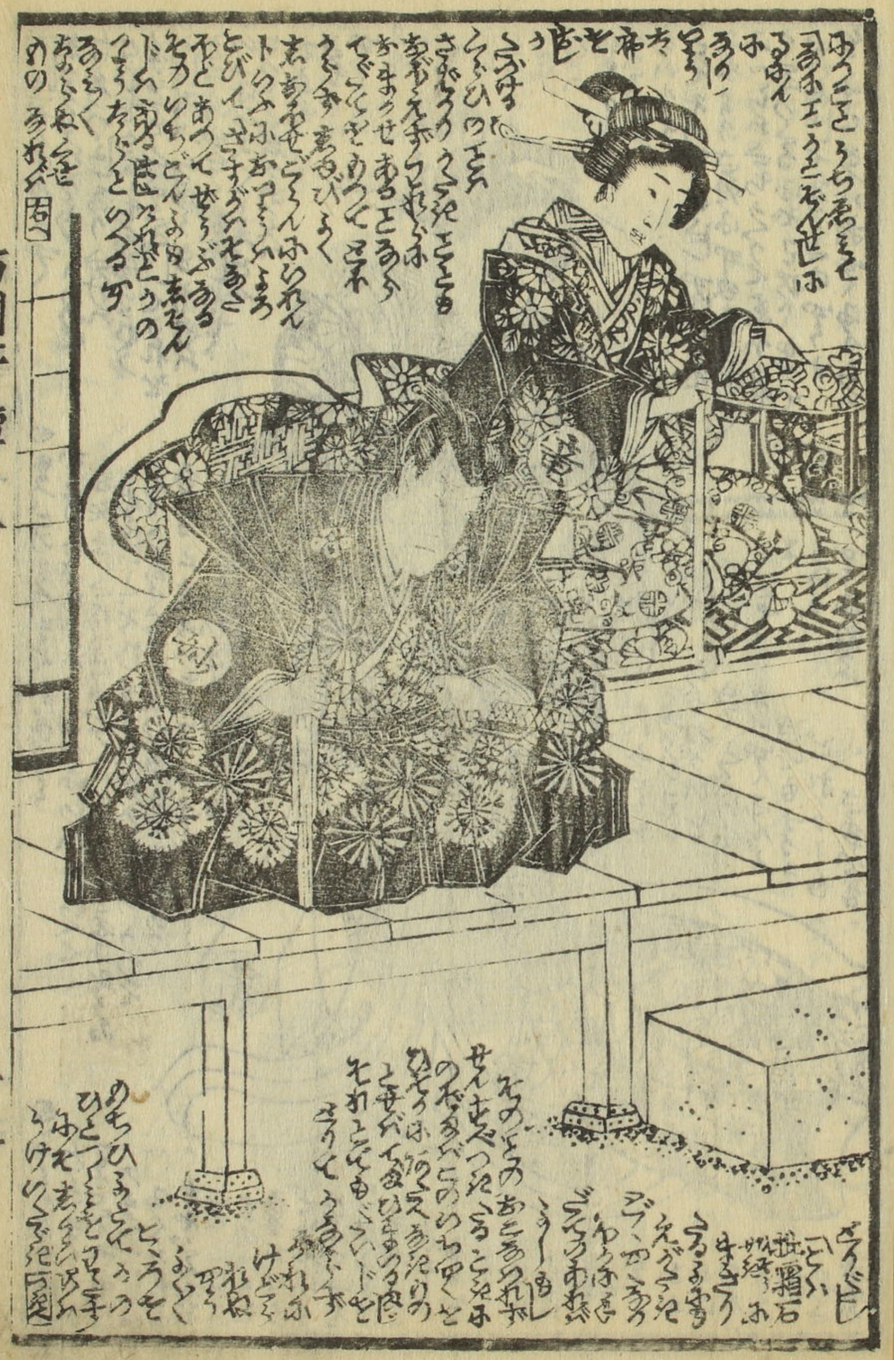


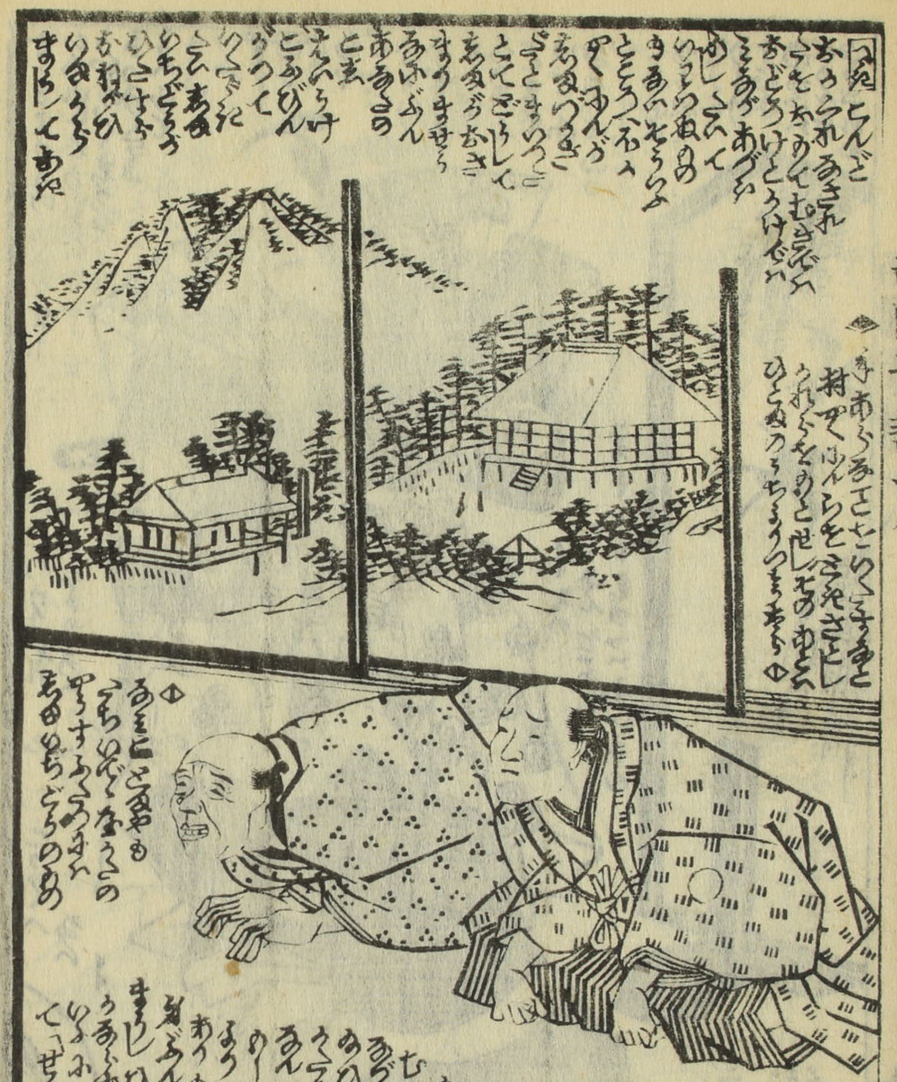




春水作
芳虎画







新増補西國奇談

廿編 為永春水作
廿一編 孟齋芳虎画
九編 假名垣魯文作
十編 錦朝樓芳虎画
五編 柳亭種彦作
六編 山亭有人編次
三編 孟齋芳虎画作

薄緑娘白浪
隅田川月と梅若
繪本太閤記

地本問屋 西國廣小路 加賀屋吉兵衛板